

NGO 相談員出張サービス実施報告書

作成日：平成 29 年 2 月 10 日（金）
特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会

1. 企画名：

「第 24 回ワン・ワールド・フェスティバル」での相談対応
（形態 相談対応サービス／複数団体による合同出張サービス）

2. 実施団体：

（特活）日本国際ボランティアセンター（JVC）	池田未樹
（特活）アイキャン（ICAN）	井川定一／吉田文
（特活）AMDA 社会開発機構	山上正道
（公財）PHD 協会	坂西卓郎／上石景子
（公社）日本国際民間協力会 NICCO	大豊盛重／福島美樹
（特活）関西 NGO 協議会	榛木恵子／高橋美和子／谷川詩織

3. 日時：平成 29 年 2 月 4 日（土）・5 日（日）10：00～17：00

当日シフト：

2 月 4 日（土）	
10：00～12：30（2.5h）	坂西（PHD 協会） 山上（AMDA） 井川（アイキャン）チラシ配布
12：30～14：30（2.0h）	福島（NICCO） 榛木（KNC）
14：30～17：00（2.5h）	池田（JVC） 吉田（アイキャン）
2 月 5 日（日）	
10：00～12：30（2.5h）	山上（AMDA） 吉田（アイキャン）
12：30～14：30（2.0h）	上石（PHD 協会） 池田（JVC） 谷川（KNC）チラシ配布
14：30～17：00（2.5h）	大豊（NICCO） 高橋（KNC）

※各ブースに相談員及び外務省プログラムチラシの配架・配布
井川（アイキャン）、高橋・谷川（KNC）

4. 場所：

カンテレ扇町スクエア 1F 玄関前フロア
(大阪府大阪市北区扇町 2 丁目 1-7)

5. 参加者：

相談対応人数 計 89 人 (4 日:52 人、5 日:37 人)
相談対応件数 計 115 件 (4 日:70 件、5 日:45 件)
※イベント参加者総数 約 25,000 人

6. 実施報告：

<実施内容>

西日本最大の国際協力の国際協力イベントであるワン・ワールド・フェスティバルにて、会場となったカンテレスクエア正面玄関フロアに「NGO 相談員ブース」を設営。全国の NGO 相談員でシフトを組み、開場時間を通して常時 2~3 人体制で、国際協力や ODA、NGO に関する質問・相談に対応した。

また、ブース付近を通行する不特定多数の来場者、北区民センターで出展する NGO ブースには、NGO 相談員や外務省プログラムのチラシを配布し、相談員制度の広報、制度活用の普及に努めるとともに、プログラム参加を促した。

二日間での相談員ブースを訪れた人数は、89 人に上り、相談件数は 115 件であった。

<所感>

本年度は、実施団体と協議の上、人通りの多い正面玄関フロアにブースを設営して相談対応を実施したため、昨年度より多くの方に利用いただくことができた。NGO 関係者に限らず、中学生を含む学生、教員、留学生や外国籍の方など、多様な層が相談員ブースを訪れる機会を提供し、本制度の普及に貢献できたと考える。

また、相談対応だけに終始するのではなく、相談員間で協力し、北区民センターでブース出展している NGO や一般の来場者に対して、積極的にチラシを配布し、相談員ブースの活用を促した。そうした広報努力もあり、相談人数及び件数の増加につながったと考える。

一方、正面玄関フロアのスペースは、本年度は申し込み団体がいなかったことから、無料で出展することができたが、次年度以降、この場所を確保するのであれば、予算を計上しておく必要がある。出展料の費用がかかったとしても、多くの来場者に本制度を活用いただくためには、次年度も同じ場所で開催できることが望ましい。

<優良相談案件>

【1】アメリカ留学中の大学院生

相談者はネパールにインターンとして訪問を予定しており、現地の情報がほしい。

特にダリッド（不可触民）についての情報がなく、それらの持っている団体なども教えてほしいとのこと。

対応した相談員の所属団体が 1990 年代前半からネパールにてダリッドへの支援を展開しており、詳細な情報の提供を行った。また、ネパールから一時帰国しているスタッフがワン・ワールド・フェスティバルに参加しているので、紹介を行い現地の最新情報も含めた情報提供を行った。

【2】京都大学大学院生（留学生）、大阪大学大学院生からの相談

2 年前のワン・ワールド・フェスティバルで相談対応をした留学生が、NGO 支援のためのソーシャルビジネスを立ち上げ起業しており、NGO のニーズ、ファンドレイズ状況について知りたいということで、再びブースを訪れた。起業の内容は、外食産業と協力し、パーティーや大人数での会食の際、15～30 パーセントが指定の団体に寄付される『社会貢献型ソーシャルダイニングサービス』であり、シンガポールなどほかのアジアの国ではすでに成功している社会貢献ビジネスである。今後も継続して相談に対応する予定である。

7. 別添（写真）



以上

平成 29 年 3 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人沖縄 NGO センター
代表 新垣 誠

NGO 相談員による出張サービス実施の報告

NGO 相談員による出張サービスを下記の通り企画し、実施いたしましたので報告いたします。

1. 企画名：地球のために今できることってなんだろう？@アースデイやんばる 2017
2. 出張者氏名：中村可愛
3. 主催者団体名：アースデイやんばる実行委員会
4. 実施日：平成 29 年 2 月 4 日（日）10:00～17:00
5. 実施場所：ホリスティックビューティーセンター

住所 沖縄県名護市大東 1-1-7

6. 参加者：約 50 名
7. 実施報告：まず沖縄県立本部高校のボランティア 3 名と引率教員 1 名に SDGs やフェアトレードの紹介を行った。動画や写真など視覚に訴える素材を使い理解を深めてもらい、フェアトレードのチョコレートのよさを参加者にいかに伝えるのかを話し合った。

その後は、ブース訪問者に SDGs の簡単な説明や、フェアトレードとそうでないチョコレートの試食、チョコレートのできるまでの説明などを行った。「フェアトレード」や「SDGs」の言葉になじみがなかった方にも紹介できた。アースデイイベントなので、普段から持続可能な生活を目指している方々も来て交流もでき、高校生ボランティアの学びも深まっていったようだ。ブースには、本部高校の教員も数名尋ねてきた。地元の高校生にボランティアで協力してもらうことは教員や家族も巻き込むことができることを改めて感じた。来年度も年間を通して出前授業やこのようなイベント参加を企画して行きたいと本部高校教員からの話もあった。

8. 別添（写真）



よこはま国際フォーラム 2016 における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

実施団体：(特活) 開発教育協会／DEAR

日時：2017 年 2 月 5 日 (日) 15:20～17:10

場所：JICA 横浜 (神奈川県横浜市中区新港 2-3-1)

事業名：よこはま国際フォーラム 2016

主催団体：よこはま国際フォーラム 2016 プロジェクト

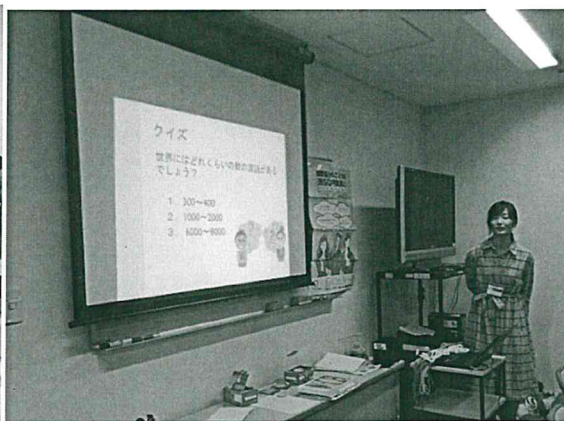
実施内容：ワークショップの実施

神奈川県内で活動する団体を中心に、NGO や国際協力、開発教育や国際理解教育に関する団体が一堂に会する「よこはま国際フォーラム 2016」において、ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら～SDGs を一緒に考えよう～」を実施した。

所感および効果：

当協会が実施したワークショップには、30 名の方が参加してくれた。参加者は老若何女様々で、「世界の現状をもっと知りたい」・「SDGs について理解を深めたい」と、参加目的も様々であった。参加型のワークショップであったこともあり、立場や年齢が違う中でお互いに学びあいながら世界について考えるワークショップができたように感じている。参加後のアンケートでは「SDGs が出来た背景を体感することができた」「先進国に生きる自分たちがやらなくてはならないことについて考えさせられた」「世界のために色々と行動していきたい」というような意見が多数みられ、世界の現状や自分たちとの繋がりを体感的に捉えた上で、前向きにその解決のために行動したいと考えるきっかけとなったようだ。

また、ワークショップの前後に、開発教育の教材や SDGs に関する資料などについても質問を受けることができて、NGO 相談員の広報にもつながった。



NGO 相談員による出張サービス実施報告書

認定特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

1. 企画名 : 海外ボランティアを知ろう！～NGO って何をしているの？～

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

2. 出張者氏名：(特活) 名古屋 NGO センター 堀江愛里

3. 催しの概況：

・実施日：2017 年 2 月 5 日（日）14：00～16：00

・場 所：福井市総合ボランティアセンター研修室(福井市中央 1 丁目 2-1 ハピリン 4 階)

・来場者数：27 人

・概 要：福井市総合ボランティアセンターでは、ボランティア活動へのきっかけづくりとして、今年度前期に連続講座「ボランティアアカデミー」を実施した。そこで、国際分野への関心が非常に高かったことから、2 月に表題のセミナーを実施することとなり、当団体への依頼が寄せられた。セミナーを通して、国際協力ボランティアへの疑問や不安を解消し、国際協力や NGO の理解者を広げ、活動する人を増やすことを目的としセミナーを行った。

4. 実施内容：

以下の項目についてセミナー形式にて講演を行った。講演後、参加者から個別に質問を受け回答した。

- ・ NGO とは何か
- ・ 中部地域 NGO の活動事例(設立の経緯とや現在までの活動内容)
- ・ 海外での長期活動の事例紹介-青年海外協力隊
- ・ 海外での短期活動の体験談-スタディツアー(ペルー・タンザニア)
- ・ 国内での長期活動の体験談-インターン
- ・ 国内での短期活動の体験談-ボランティア
- ・ 学内の国際協力サークルでの活動
- ・ 海外スタディツアーの魅力について(参加した体験からーカンボジア・インド・フィリピン)
- ・ 参加者にも始めやすい活動について(書き損じはがき収集ボランティアなど)

<個別質問にて対応した主な相談内容> 相談対応件数：22 件

- ・ スタディツアーへの参加条件、費用など
- ・ NGO は資金繰りをどのように行っているのか知りたい。
- ・ 政策提言活動は誰に対してどのような形で行っているのか。
- ・ 継続して支援をしていくためのモチベーション維持について。
- ・ NGO を新たに立ち上げる際に必要なことや、苦勞を教えて欲しい。
- ・ 途上国を支援する際に、依存されず、自立を促すような支援をするためにはどのような方法・コツがあるか。
- ・ NGO スタッフの仕事内容について詳しく教えて欲しい。
- ・ 将来国際協力に携わりたいが、どのようなキャリアの積み方があるか。
- ・ フェアトレード活動について知りたい。
- ・ 得意の英語を活かした活動はあるか。

- ・留学中にできる国際協力活動はあるか。

5. 所感および効果：

当初は学生を対象とした講座を予定していたが、あいにく模試受験や学校の試験期間と重なったため学生の参加者は少なかった。しかし多くの市民の方に参加していただき、参加者の年齢層としては学生～高齢の方まで幅広く集まった。また、各参加者の国際協力への関心度や実際の参加度も様々であり、この講座で NGO の役割や活動を知り、今後国際協力について理解を深めていこうとしている方もいれば、すでに NGO 活動を行っている方もいらっしゃった。そのため、セミナーでのレベル設定が難しく、セミナー内容を物足りないと感じる参加者もいらっしゃったかもしれないが、講座後半の個別質問にて対応できたように思う。

今回、福井市のボランティアセンターへの出張相談は初めてであったが、福井では国際協力に関する情報を得られる場所やセミナーなどがまだ少なく、国際協力を携わりたいと思っている市民が一步を踏み出せないでいることを実感した。今後このような機会をさらに増やし、ともに中部地域の国際協力を盛り上げていきたい。

以上



平成 29 年 3 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人沖縄 NGO センター
代表 新垣 誠

NGO 相談員による出張サービス実施の報告

NGO 相談員による出張サービスを下記の通り企画し、実施いたしましたので報告いたします。

1. 企画名：
2. 出張者氏名：中村可愛
3. 主催者団体名：那覇市若狭公民館
4. 実施日：平成 29 年 2 月 6 日（月）19:00～21:30
5. 実施場所：那覇市若狭公民館

住所 沖縄県那覇市若狭 2-12-1

6. 参加者：16 名
7. 実施報告：まずは、ヴィーガンチョコバナナタルトの材料と作り方の説明を行った。材料はできる限りフェアトレードやオーガニック素材を選んでいることや、こだわりの材料は作る人も食べる人の身体にも優しいことを伝えた。チョコバナナタルトを 1 時間ほどで作り終え、その後はフェアトレードやそうではないチョコレートの試食をして何が違うのか原材料を確認した。そして動画を使用して不平等な貿易のしくみや児童労働の現状を紹介した。さらにチョコレートの主原料のカカオの世界的な産地であるガーナで青年海外協力隊員として活動中の譜久山ゆかり隊員とスカイプでつなぎ、ガーナの教育や子ども達の事情などを話していただいた。参加者の中には過去に JICA 主催の開発教育講座を受講した小学校教員も数名いて積極的に質問もしていた。チョコバナナタルトを作るだけではなく、国際協力に関する深い学びもできたと感想をいただいた。

8. 別添（写真）



平成 29 年 3 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)認定 NPO 法人 IVY
代表理事 枝松直樹

NGO相談員による出張サービス報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告いたします。

記

1. 企画名:2016 年度開発教育指導者研修
【形態:相談応対サービス・講演・セミナー・その他(ワークショップ)】
2. 出張者氏名:阿部眞理子
3. 依頼元／主催等団体名:JICA 東北支部
4. 実施予定日時:平成 29 年 2 月 11 日(土・祝) 10 時 00 分～18 時 00 分
5. 実施場所:盛岡地域交流センター(マリオス)岩手県盛岡市盛岡駅西通二丁目 9 番 1 号
6. 参加者:29 名
7. 実施内容:

JICA 教師海外研修の過年度研修者同士が開発教育を実践する際の悩みや好事例を共有することにより、実践における阻害要因を洗い出し、教員・NGO・JICA が連携することによって、東北において開発教育を推進していくことを目的として、JICA 東北支部が東北5県の教員を招き盛岡市で「2016 年度開発教育指導者研修」を行った。

研修では、前半

- ・ JICA 教師海外研修参加教員による中学校での開発教育の実践紹介
- ・ にいがた NGO ネットワークの取り組み紹介
- ・ 紹介された実践事例について分析

を行い、後半は、

- ・ 開発教育をなぜ行うのか？
- ・ 開発教育の推進を阻害している要因は何か？
- ・ 阻害要因を取り除くためにはどうしたら良いか？

を話し合い、開発教育の推進のためには、教員の力だけでなく、外部のリソース(JICA、NGO 等)からの協力を得て一緒に活動していくことが重要であることを確認した。

NGO 相談員として、ODA を活用した IVY の活動をもとに国際協力 NGO と学校現場との連携の紹介、開発教育の授業案に対するアドバイス、教員のネットワーク化への提言を行った。

8. 所感:

参加した教員からは、

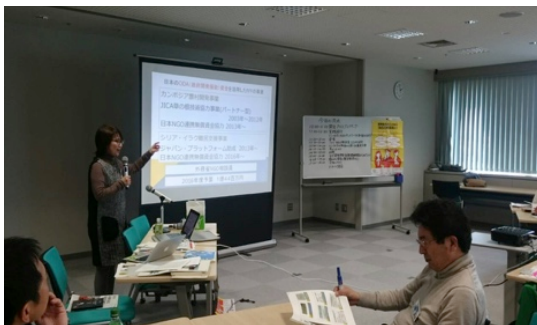
- ・ 難民問題など、現地情報が少なく現場の声を拾いにくいテーマについて、

IVYのように現場で活躍されている方と一緒に教材作りをしたい

- ・ スカイプで JICA 協力隊員とつなぎ、授業されていると伺ったが、どのようなテーマでどのように実践されているか知りたい。
- ・ 各県のネットワーク作りをどうしていくかをテーマとして、また集まりたい。

等、前向きな発言が相次ぎ、東北の教員と JICA・NGO の連携強化につながる研修となった。

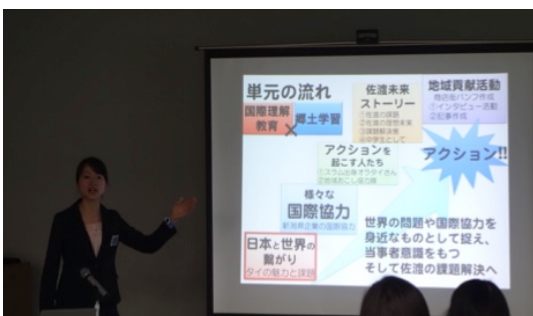
以上



弊団体のODA関連事業の説明



開発教育について説明



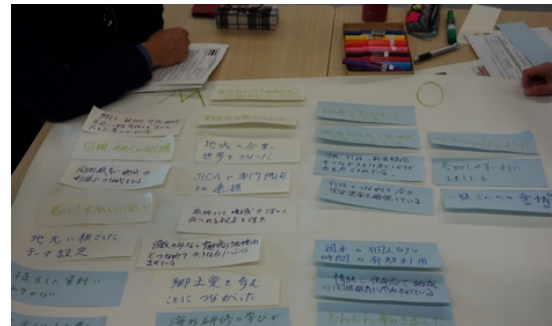
中学校の実践例の発表



にいがたNGOネットワークの紹介



JICA各県デスクの立場から教員との連携について提案



中学校の実践例についての分析

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：佐賀市の国際協力機関等への広報及びネットワーキング活動
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（広報・ネットワーキング）】
2. 実施者：原田君子 （特活）NGO 福岡ネットワーク
3. 依頼元／主催等団体名：独立行政法人 国際協力機構国際協力推進員（佐賀）
4. 実施日時：平成 29 年 2 月 21 日（火）13 時 00 分～18 時 00 分
5. 実施場所：JICA デスク佐賀（佐賀市白山 2-1-12 佐賀商工ビル 1 階）他計 3 か所
6. 実施報告：

出張サービスで佐賀県内の NGO 活動や状況近況について伺って来ました。
佐賀県の「佐賀 NGO ネットワーク」について代表の大野さんから現在のネットワークの活動や組織形態などについても詳しく説明をしていただきました。活動はまだ緩やかな活動を行い 2 か月に 1 度市民向けにネットワーク加盟団体から活動紹介と講座を企画して活動中との事でした。

次に JICA デスクに伺い佐賀県内の NGO について聞かせて頂きました。法人化や活動が活発な団体は幾つかは有るが知る限りの答えでは身近にあまり NGO 団体が居ないとの答えでした。JICA デスクさんばかりに頼らず、自分の足を使って各県の施設などに向いどのくらいの団体が存在をするのか本来は調査が必要ではないかと感じました。

最後に加盟団体である「認定 NPO 法人地球市民の会」を訪問しました。団体基盤として展開する自主事業のお話しや活動状況など幅広い活動など躍動感あふれるお話を聞かせて頂きました。

地域は地域の中で差を感じた出張でした。私たち NGO 相談員としてもっと地域に自ら出向き NGO の発掘に本来はもっと動く必要があるのではと感じましたが、現実には人とモノと金が付いて回るため、現実と理想のギャップも感じました。しかし相談員の役目として地域には地域の中で地道でも国際協力を伝え続け、自分たちで出来る範囲で出来る事で努力を続ける必要があると思った出張でした。

7.写真添付



佐賀 NGO ネットワーク



認定 NPO 法人地球市民の会

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：「途上国開発の最前線に迫る！～共創的リーダーシップのススメ～」
2. 実施者：今西浩明
3. 日時：平成 29 年 2 月 25 日（土）10:00-12:00
4. 場所：都立多摩図書館セミナールーム 2 国分寺市泉町 2-2-26
5. 参加者：アイセック橋大学委員会メンバーを含む学生 24 名
6. 実施報告：

途上国の貧困問題の現状を把握し、様々なアプローチ方法について理解を深め、学生として各セクター（公的、民間、市民団体）と協働してどのように解決に貢献することが可能かを考えるイベントが実施され、NGO 相談員は、市民団体からのパネラーの一人として登壇した。まず団体、個人の自己紹介を行なった後、団体の強みを踏まえつつ他のセクターとの連携・協働事例について紹介した。さらに、学生との協働事例や今度の可能性などについて、具体的なアイデアなどについて紹介した。続いて、参加した学生が小グループ（4 名づつ）に別れ、それぞれがどのような活動が可能かについて議論を行った。その際には、議論を行っているグループを巡回しながら個別の質問にも対応した。

最後に、参加全体で質疑応答の時間を持った。

なお、公的セクターは JICA、民間セクターは（株）マザーハウスからそれぞれパネラーが登壇し、学生との協働とそれに続くグループ討議はオックスファムからのスタッフがファシリテーターを担当した。

7. 所感：

NGO 相談員がその経験などから具体的な事例などを紹介することにより、学生にとって自分たち自身で考えることに有益なインプットになったと思う。質疑応答も、学生との連携するにあたり、課題は何が考えられるか？学生に期待することは何か？など積極的なセッションとなった。NGO 側でも、学生との協働は必ずしも資金的に効率的ではない部分もあるが、今後の国際分野への理解を深める目的のみに留まらず、より実践において学生など若者との協働を考えていくべきと感じた。

8. 別添（写真）



参加者の様子



NGO 相談員のプレゼンの様子



質問に答える様子

平成 29 年 3 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)認定 NPO 法人 IVY
代表理事 枝松直樹

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告致します。

記

1. 企画名:国際理解講座「難民を知るワークショップ～もし、あなたが故郷を追われたら～」
【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・その他(ワークショップ)】
2. 出張者氏名:阿部眞理子
3. 依頼元／主催等団体名:会津若松市国際交流協会
4. 実施日時:平成 29 年 2 月 26 日(日) 14 時 00 分～16 時 00 分
5. 実施場所:会津若松市生涯学習総合センター(福島県会津若松市栄町3-50)
6. 参加者:15 名
7. 実施内容:

福島県会津若松市国際交流協会では、会員および一般市民を対象に、地域から地球上の人々の現状や課題などを見つめ共有し、理解と認識を深めることを目的として、国際理解講座を開催している。今回その一環として、弊団体に「難民を知るワークショップ」への依頼があり、高校生、大学生、市民15名が参加し、ワークショップを行った。

このワークショップは、各グループがシリアに住む1組のクルド系シリア人の家族になり、紛争に巻き込まれ難民となっていく過程及びそこで起こる様々な問題を模擬体験していった。残さざるを得ない場合誰を残すか、難民認定を受けるにはどうしたらよいか、キャンプに留まるか、など家族となったグループメンバー同士、真剣な話し合いが行われた。

ワークショップ後半では、4回目となった難民への越冬支援や補習校・公立校開校を行っている教育支援(N連・JPF事業)を紹介することにより、ODAや日本の国際協力活動について説明し理解の促進を図った。

終了後、参加者から様々な相談があり対応を行った。

8. 所感

今回の出張先である会津若松市は人口約12万人という地方都市であるが、国際協力NGOが近隣になく、大学に国際関係の講座がないなど、国際協力活動へのアクセスが難しい地域である。若手の参加者からは、国際協力活動に参加したくても参加出来る場がないという相談をいくつか受けた。「それなら、自分たちが出来ることから始めてみてはどうか」と提案したところ、早速参加した高校生同士で団体を作ることになったとのこと。また、中学生の頃から国際協力

活動を自分で行っていた弊団体の元ユース代表（現在、JICA青年海外協力隊員としてニカラグア在住）に、高校生に対するアドバイスを依頼し交流が始まった。国際協力の土壌がない地域への出張サービスは、特に若者に対して様々な波及効果を生むと感じた。

参加した高校生からのメールからの抜粋

今日のワークショップすごくためになりました。難民の人たちは自分たちが生きていくために、どの道を選ぶべきなのか、それを色々な角度から考えていかなければならないと気づいたと同時に、自分がもし難民になったら、短い時間で自分にとって最良の選択をすることができるのか不安になりました。本当に難民になった気分で様々なことを学べて良かったです。ありがとうございました!!

私が今やりたいのは、講師の方をお招きしてワークショップを行ったり、日本の問題や国際問題について議論したり、地元会津の活性化に向けてボランティアに参加するだけでなく、自ら企画を考えたりする会津の高校生団体を作ることです。会津の高校生は、今世界で何が起きているのかという情報に疎く、また自分の将来の可能性を広げるためのワークショップの存在を知らない人が多いように感じます。自分たちでそのような機会をつくり、自分のこと、将来のことを見つめていける高校生団体を作りたいです。

現在、昨日一緒にワークショップに参加した高校生同士、本格的に団体作りを始めていこうと決めたところです。

個人としてやりたいのは、将来の夢（医療関係の国際協力）に向けて1度アフリカに行くということです。自分は本当にアフリカでやっていけるのか、それを早い段階で、現地に行ってみて感じてきたいと思っています。

以上



NGO 相談員制度、ODA などの紹介を行っているところ。



難民を知るワークショップの一場面